

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 主な分析

- 「学校生活（学習・部活動等）に充実感・満足感を持っている。（共通）」
生徒はコロナ禍の中、過年度よりさらに高い評価となった。一方、学習や部活動などに制限がかかる場面が多く、実際の指導に当たっている教職員の数値は低下傾向にある。
- 「授業の中に、お互いに話し合ったり、発表したりする活動がある（生徒）」「学校は主体的で対話的な学びの実践に取り組んでいる。（教員）」
生徒の肯定率の高さは昨年度とほぼ同等の高い数値となっている。加えて教職員の評価は大きく向上した。授業において主体的な活動を取り入れている成果であるとともに、ICT機器やクロムブックの活用の効果であると考ええる。
- 「学校は進路について適切な情報を適切な時期に知らせてくれている。（共通）」
3年生では、合同保護者会を外部会場で実施することができたが、2年生はコロナ禍の影響で、実施を見送った。そのため2年生保護者の評価が低くなったと考えられたため、3学期に、1、2年生の進路説明に関する動画を公開した。
- 「SSHの取組は玉島高校の魅力の一つとなっている。（共通）」
コロナ禍で、玉島SSH事業も中止や、計画の変更を余儀なくされたため、教職員としては満足できない部分を感じているのではないかと考えられる。一方、生徒や保護者は、9割を超える方が魅力的と感じ、更にその割合が増加傾向を示している。コロナ禍で校外での活動が制限される中、校内でのリモート研修などの代替取組が充実できているためと考えられる。

2 学校関係者評価委員名

- 桑原 敏典（岡山大学大学院教育学研究科 副研究科長）
- 中塚 裕和（太陽トラベル株式会社 代表取締役）
- 山根 敬仁（玉島西公民館 館長）
- 猪木 直樹（玉島市民交流センター センター長・玉島高校同窓会 会長）
- 森本 英貴（玉島高校PTA 会長）
- 鴨生 知久（倉敷市立玉島北中学校 校長）

3 学校関係者評価

- ・コロナ禍の中にありながら、工夫して様々な行事を実施しており、大変素晴らしい。
- ・海外研修が実施できない中、リモートや大学・留学生と連携したグローバルの取組が評価できる。
- ・地域の力を今後もさらに活用してほしい。課題研究などでも活用できるのではないか。地域の方々も玉島高校生とともに活動することを期待している。
- ・地域に対して、玉島高校がいかに素晴らしい学校かをさらに工夫して伝えてほしい。さらに、5年後を見越した戦略を立ててほしい。

4 来年度の重点的な取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- SSH事業は、第Ⅳ期がスタートする予定
 - ・3つの力として、「読み解く力」「考え実行する力」「論じ合う力」を育成する。
 - ・日常の授業の中にも探究的な視点を取り入れ、より、主体的で深い学びへと繋げていく。
 - ・課題研究では、地域とさらに繋がる活動にしていく。
 - ・教科横断型の授業にも挑戦し、多角的な視点を育成していく。
- その他
 - ・フェイスブックの活用などを通して、SSH事業や、部活動の活躍・進路実績などの広報活動を充実させる。
 - ・令和5年に控える玉島地区への私立高校の進出に対する対策を練り、学校全体で共有していく。